

年間第5主日

マルコ 1・29 - 39

2018.2.4 高円寺教会 9:30 ミサ
町田教会主任司祭 林 正人神父

わたしはこの教会の助任だったわけですがけれども、この教会から移ってもう7年半ぐらい経ちました。で、わたくし事ですがけれども今年の9月になると、わたし、50歳になります。もう50のおじさんになるんです、今年。じゃあ、40歳の時って何してただろうなってふとこの前思い返したみたら、10年前ですからここに来るよりも更に前の頃だったんですけど、ちょうどローマに居たんです。ローマに居たなんて言うと、なんて素晴らしいなんて思うかもしれませんがけれども、勉強がさっぱり分からなくて、けちよんけちよんになって逃げ帰って来ました。黒歴史の時代、暗い40歳の誕生日だったような気がします。ただ、一応バチカンの学校に通っていたので、サン・ピエトロの広場の前を毎日通って学校に行っていたんですね。ときどきテレビなんかでこのサン・ピエトロが写ったりなんかすると、「あ、懐かしいな」と思います。でももう二度と行きたくはありませんがね。

それはともかく、サン・ピエトロの広場、皆さんも行ったことある方もいらっしゃるかもしれませんが、テレビなどによく出てきますけれども、屋根のあの鍵型の柵というか、あの上に聖人のご像がうじゃうじゃと乱立しているわけですね。イエス様から始まってたくさんのお聖人のご像が飾られています。その中でも別格のお聖人のご像が2体あります。他のはみんな屋根の上にご像があるんですけど、その2人だけは下の方に、ドンと2人居るわけですね。それがペトロさんとパウロさんです。やはりこのお2人は別格なんですね。最近はその前にオーロラヴィジョンみたいなのがあったりするんですけど。

さて、サン・ピエトロのご像もそうですし、大体にして絵とかご像に出てくるペトロさんやパウロさん、持ち物がありますよね。ペトロさんの持ち物と言えば、鍵ですよ。鍵を持っています。じゃ、パウロさんは、全部が全部とは言いませんけども、絵とかご像で、パウロさんが持っている物って何でしょう？ 剣。刀を持っているわけですね。別にそれで人をバツバツ切ってたわけじゃないんですけども、刀を持っています。それは、聞くところによると、勇敢に外国世界にもイエス様を告げ知らせた、その勇敢な布教宣教のイメージで刀を持ってるそうです。確かに、このパウロさんがいなければ、イスラエルの国を出て外国世界にイエス様が伝わらなかったかもしれないですし、ひいて言えば、回り回ってこの日本まで、日本にはザビエルさんが伝えてくださったわけですが、その元を辿ってみればパウロさんに行き着くのもかもしれません。そうい

う意味では、本当にパウロさんは日本にとっても恩人ですし、そして、何よりも、キリスト教というものが発展する上で一番功績があった人なことは確かかなんだろうと思います。

でも、子どもでも知っていることですが、パウロさんは元々イエス様を信じている人たちを迫害していたわけですよ。次々に逮捕し、そして牢屋に入れ、「使徒言行録」にも出てきますけれども、ステファノさんが石打の刑で殺される時には、それに賛成していたなんて書いてあるぐらい、イエス様を信じる人をいじめていた。迫害していたわけですよ。それが、ある時、イエス様の光に打たれて、そして、コロッと180度変わって、それまではイエス様を信じる者を逮捕していたのが、「この方こそ救い主である」って言ってイエス様を宣教し始めたわけですよ。それは、わたしたちにとっては素晴らしいことかもしれないかもしれませんが、それまで一緒にキリスト教の人間を、イエス様を信じる者を逮捕していた仲間たちから見れば、そのパウロさんの変わり様は「フザケンナ」っていう話ですよ。ですから、パウロさん、わたしたちにとっては素晴らしい人、恩人なのかもしれませんが、その当時は、一緒になってイエス様を信じる人を迫害している人たちにとっては本当に裏切り者だったわけですよ。そして実際に、勇敢なイメージとは裏腹に、イエス様を信じたところからパウロさんは生涯迫害され、牢屋に入れられ、苦しみを受けていったわけですよ。剣を持っている勇敢なイメージとは似ても似つかぬ、自分のほうが迫害される生涯を送ったわけですよ。馬鹿ですよ、イエス様を信じるにしても、もうちょっとこっそり信じていれば、そんな迫害なんかされなくて済んだのに、「この方こそ救い主」なんて言っちゃうもんだから、「何を血迷ったか」と言ってみんなに迫害されてしまったわけですよ。

どうしてそんな、まあ、大体にして聖書に出て来る人っていうのは空気読めない方が多いんですけど、パウロさんは特にそうかもしれないですね。なんでそんなことを言っちゃうのか。それは、今日の2番目の朗読、パウロさん自身の手紙に出てきますけれども、「そうせずにはいられないのだ。福音を告げ知らせないなら、わたしは不幸なのだ」ということ。もう迫害されてけちんけちんなんですよ。でも「そうしなければ、わたしは不幸なのだ」って言うわけですよ。「福音を告知せずに迫害されないよりも、迫害されても福音を告げ知らせる。それがわたしが神様から頂いた役割、務めなのだ」。こう、今日の2番目の朗読でパウロさんははっきり言っています。イエス様を告げ知らせる、神様の心を告げ知らせるといふのはこういうことなのかもしれません。パウロさん始めイエス様のお弟子さんたちは、身に危険が迫ろうと、迫害されようと、「そうせずにはいられないのだ」という燃える心でイエス様を告げ知らせていたわけですよ。

さて、では、その当のイエス様自身はどうでしょう。今日の福音書は、まず、ペトロさんとアンデレさんの家に行って、ペトロさんのしゅうとめさんの熱が

出ていたのを治してあげた、病気を治してあげたっていうところから始まっています。ペトロさんのしゅうとめさんですから、ペトロさんやアンデレさんにとっては家族。弟子の家族なんですからイエス様にとっても家族みたいなものですよ。自分たちの仲間なんです。まず、仲間であるペトロさんのしゅうとめさんの病気を治してあげました。

その次に、今度、そのうわさを聞きつけて来たんでしょうか、街中の人たちがイエス様のところに来ました。「病気で苦しんでいます。治してください」。「悪魔に憑かれています。どうか治してください」。外からペトロさんたちの家に押しかけて来たわけですね。で、自分のところに来た方たちをイエス様は決して追い出さない。みんな治してあげたと、今日の福音にあります。これだけのことをするんですから、この街でイエス様の人気はうなぎのぼりだったんだろうと思います。いろんなイエス・グッズなんか売ったら、もう大人気で売れて売れてしょうがない、みたいな感じになったんじゃないかなと思うんですね。街の人たちからすれば、「出てけ！」一言で悪魔を追い出してくれる、手をとって起き上がらせるだけで病気を治してくれるイエス様が自分の街に居る、それはもう大変なことですよ。ずうっと居てもらいたいと思うのは人情だろうと思います。

でも、イエス様はその街だけに居ようとは思わなかった。外に出て行きました。「そこでもわたしは宣教する。そのためにわたしは出て来たんだ」と、今日のお話の最後に出てきます。

さあ、みなさん、イエス様が向かっていた、つまり、病気を治したり、宣教しようとした人が、だんだん狭い範囲から広い範囲に広がっていくというのが分かりますかね。最初はペトロさんのしゅうとめさん、ですから家族みたいなものですよ。内輪の人です。で、今度は外からやって来た人たち、それでちょっと広がりますよね。でも、街の中だけです。でもその後、イエス様はその外に出て行くわけですよ。その外にも神様が造り、神様が愛している人たちが居るわけです。「そこに向かってわたしは宣教する」と、外に出て行きました。身内だったら、それはみんな仲良くしますよね。家の中の家族だったら仲良くします。ご近所さんだったら、ときどきけんかもするかもしれないけれども、やっぱりご近所さんだったら、やっぱり仲は良いかもしれませぬ。でも、外に出て行くと、どんなにイエス様が神様のことを伝えても、みんなが聴いてくれるとは限らないし、もしかしたら無視されるかもしれない。鼻で笑われるかもしれない。もしかしたらいじめられるかもしれない。それでもイエス様は外に出ていくわけですね。そういう意味ではパウロさんと同じなのかもしれませぬ。「そのためにわたしは来たのだ」。「これが神様がわたしにくれた役割なのだ」。パウロさんもイエス様も、どんなに迫害が待っていようと、外に向かって出て行きました。

福音を告げ知らせると言いますか、わたしたちは大体にして人の役に立った

り良いことをしたりする時っていうのは、自分が損をしますよね。こどもでもわかりますよね。おじいちゃん、おばあちゃんに電車の席を譲ったら、自分は立たなきゃいけないでしょ。自分は損しますよね。良いことする時っていうのは、自分が損するんです。おじいちゃん、おばあちゃんのために席を立っても、お金はもらえません。お菓子をもらえるわけでもありません。でもわたしたちは、おじいちゃん、おばあちゃんのために席を譲ります。その人が「ありがとう」って言って…「ありがとう」も言ってくれないかもしれない、でも笑顔をくれるかもしれません。わたしたちは、だから日常的にわたしたちだって良いことをするために損はしているんです。でも、わたしたちはそれが損とは思いません。そこにもまた神様のお恵みがわたしたちの中に働いているんです。布教宣教というのはそういうことなんじゃないでしょうか。

パウロさんのこの言葉、そしてイエス様の姿を見て、わたしたちも人間的には損なことがあったとしても、神様の御心を力強く伝えていくことができますように、イエス様がその力をくださいますように、ご一緒にお祈りしたいと思います。